本当に若年妊婦はやせていて、small-for-gestational-age発症率が高いのか？

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 春日, 義史, 王, 洪欣, 吉村, 拓馬, 大橋, 千恵, 眞木, 順子, 鈴木, 毅, 金, 善惠, 樋口, 隆幸, 染谷, 健一, 中田, さくら メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003477

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2018 年 第 7 巻 第 1 号 53 頁

本当に若年妊婦はやせていて、small-for-gestational-age 発症率が高いのか？
Is the risk of small-for-gestational-age influenced by maternal body composition in young Japanese women?

春日義史，王洪欣，吉村拓馬，大橋千恵，眞木順子，
鈴木毅，金善惠，樋口隆幸，染谷健一，中田さくら
Yoshifumi Kasuga, Wang Hongxin, Takuma Yoshimura, Chie Ohashi, Junko Maki,
Takeshi Suzuki, Seon-Hye Kim, Takayuki Higuchi, Kenichi Someya, Sakura Nakada
川崎市立川崎病院産婦人科
Department of Obstetrics and Gynecology, Kawasaki Municipal Hospital

【背景・目的】
本邦においては特に若年女性（25 歳未満）にやせ（非妊時 BMI＜18.5kg/m^2）が多く、small-for-gestational-age (SGA)発症リスク増大が危惧されているが、若年妊娠における体格や SGA 発症率に関する知見は少ない。本研究の目的は若年妊婦の体格ならびに児の発育を後方視的に検討することである。
【対象・方法】
対象は 2013 年から 2017 年末までに当院で周産期管理を行った満期分娩妊婦のうち、10 代群（n=94）、20 代前半群（20-24 歳：n=479）、Control 群（25-34 歳：n=2061）である。多胎妊娠、胎児奇形、妊娠糖尿病／糖尿病合併妊娠は対象から除外した。Control 群と比較して、非妊時体格、妊娠中体重増加量（gestational weight gain: GWG）、出生体重を検討した。なお、統計解析は Student t 検定、カイ二乗検定、Fisher の正確検定を用い、p＜0.05 を有意差ありとした。
【結果】
Control 群と比較して、やせは 10 代群ならびに 20 代前半群に有意に多く（p＜0.0001，p＜0.05）、GWG は両群ともに有意に多かった（各々p＜0.0001）。ただ、出生体重、SGA 発症率は両群ともに Control 群と同等であった。特に、やせにおける GWG は、Control 群と比較して、10 代群は有意に多く（p＜0.001）、20 代前半群も多い傾向にあった（p=0.18）。
【結論】
Control 群と比較して若年妊婦はやせが多かったが、GWG が多く、出生体重や SGA 発症率は同等であった。